



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第2069号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 プケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 栗原 達治 幹事 藤江 康儀



広重版画より 三島 朝霧

第2132回例会

2016.9.15(土)

司 会

柴崎恵子君

ロータリーソング

「日も風も星も」
指揮 矢岸克行君

会長挨拶

副会長 西本和夫君

私は障害者を持つ親でありながら他の障害を持った人の事をあまり考えた事がありません。手話はテレビドラマの中の世界…くらいの感覚でした。私達の生活の中にも手話がたくさんありました。

たとえば人差し指を自分にむける動作が〈私〉
手のひらを上にむけて差し出すのが〈あなた〉
手を胸の前で交差するのが〈だめ〉
指で丸をつくるのは〈OK〉

赤ちゃんに手を差し出してチョウダイと教えるのも手話だそうです。

食べる仕草をして、ほっぺたをたたく〈おいしい〉とか…
たくさん有りました。

最近はどうわ者ではなく、ろう者と言うそうです。発声の練習をしたり唇を見て理解する勉強や訓練をしていたり、手話で会話ができるようになったからだそうです。

また差別が多い事も事実で、タクシーに乗って筆談で行先を伝えたところ乗車拒否にあったり、ある県では高校野球でろう学校のチームが優勝したのに甲子園には2位のチームが出場したり、競技によっては参加すらできない事が多いようです。聴覚障害者の困る事は見た目には分からない、銀行や病院の呼び出しに気づかない、自転車や自動車に気づかない、災害時にはどう動けばよいか分からない等々、手話や筆談、口の動きを読み取るなど色々な方法を使っても細かい事が伝わらなくて誤解を生じたりすることが多いようです。健常者よりも疲れやすかったり、つり革につかまり続けるなど同じ姿勢でいることが困難な人もいます。外見では分かりにくいので

優先席に座っていても不審な目で見ないでください。

ろう者とロータリークラブの関係を調べてみました。東京ロータリークラブがろう学校に和太鼓を寄贈したり名古屋丸の内ロータリークラブでは、ろう学校に対する支援を永く続けているようです。東京町田中ロータリークラブでも楽器の贈呈、浦和中ロータリークラブでは例会で手話ダンスの体験をしていたり、さまざまなクラブで支援や交流をしているようです。

2016年4月から障害者差別解消法が施行されましたが、ろう者を含む障害者すべての人の後押しになることを願っています。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	30/39	76.92%	36/39	92.31%
今回	34/42	80.95%	会員総数	47名

欠席者 石井(良)君、大石君、木村君、諏訪部(照)君、花房君、藤江君、古屋君、前田(房)君

幹事報告

副幹事 宇田川茂君

- ①第3回IM実行委員会を10月6日(木)例会終了後開催します。委員長の出席をお願いいたします。欠席の場合は代理をお願いいたします。
- ②次週9月22日(木)は祝日休会です。
- ③9月29日(木)豊岡三島市長の卓話です。皆様出席をお願いいたします。

2016~2017年度
国際ロータリー会長
ジョンF.ジャーム

人類に奉仕するロータリー



スマイルボックス

◆佐々木君、結婚49年目のお祝いありがとうございます。入会記念のお祝いありがとうございます。

おめでとう

会員誕生日	橋本君、長田君
入会記念日	室伏君
奥様誕生日	室伏君
結婚記念日	佐々木君

卓 話

小出正吾作「やきいも」朗読会

室伏勝宏君

朗読出演: 亥角裕巳君 鈴木正二君 野田和秀君
田熊幸代君

小出正吾先生は、三島の風物詩を書き続けた世界の童話おじさんです。晩年は日本児童文学界の最長老として、世界の文学者たちと交流し、また三島市の文化活動の先駆者として活躍されました。

先生は、明治30年三島の窪町（現在の三島市役所別館の前あたり）に生まれ、平成2年93歳で亡くなりました。子供のころからの敬虔なクリスチャンであり、ユーモアに満ち溢れ、生涯童心を忘れず、その著作は翻訳などを含めると250冊を超えます。

市役所別館前に生誕記念碑が建てられています。「子どもには、子どもの世界がある」と刻まれています。私たちが少年時代を振り返ると思い当たる言葉です。

先生は戦後三島にお帰りになってからは、三島の教育分野や文化活動に大きな足跡を残され、三島の小学校を回り、童話を語られた時期もありました。

昭和49年、野間児童文芸賞を受賞したとき、その賞金で始められたのが自動車図書館「ジンタ号」です。代表作「ジンタの音」にちなんで命名しました。

先生の作品を読み聞きし、少年時代にタイムスリップできる私たちは、童心を忘れないのでまだまだ健在で活躍できそうです。

RI会長のメッセージ

1917年夏、アメリカが第一次世界大戦に参戦してからわずか数カ月後、ロータリーはアトランタで第8回年次大会を開きました。当時の多くのロータリアンは、この大会を中止すべきだと考えましたが、理事会は結局、予定通りに開催するというポール・ハリスの案に賛成しました。不安と恐怖が渦巻く中、ハリスは大会演説で、後にロータリーで最も多く引用されることになる次の言葉を残しています：

「よく指示された個人の努力は多くを成し遂げますが、最も偉大な善は、多くの人の努力が結集したときに生まれるものです。個人の努力は個人のニーズに向けることができます。しかし、大勢の努力の結集は、人類への奉仕に捧げなければなりません。結集された努力に限界というものはありません」

当時の会長、アーチ C. クランフが「世界でよいことをする」ためにロータリーの基金の設立を提案したのも、ちょうどこの大会でした。結集された努力は、結集されたリソースという新しい力と一体となったのです。過去100年間のロータリーの飽くなき活動を支えてきたのは、この結集でした。今日、財団のないロータリーを想像することはできません。財団があったからこそ、ロータリーは、地元クラブから、世界を変えるほどの力で「よいこと」をする国際的な組織へと発展してきたのです。

今年度には、財団生誕の地、アトランタでロータリー財団100周年の祝賀が行われます。第108回ロータリー国際大会は、これまでで最もエキサイティングな大会の一つとなることでしょう。感動を与える講演、素晴らしいエンターテインメント、幅広い主題の分科会で、ロータリー奉仕をさらに拡大できるでしょう。もちろん、財団100周年の祝賀では大いに盛り上がります。

国際大会の常連という方も、ここ数年出席していないという方も、一度も出席したことがないという方も、2017年国際大会は絶対に見逃すことのできない大会です。アトランタは、地元料理、親切な人びと、多くの見どころのある素敵な街です。とはいえ、国際大会に出席する本当の理由はいつも、そこで出会う人びと、見つけるアイデア、感動、友情など、大会そのものにあります。

アトランタでお会いしましょう！

(週報担当: 関本照文)

三島西RCテーマ

親睦を深め ロータリーを楽しもう